

公益財団法人 大阪科学振興協会

平成24年度事業報告及び決算の承認について

当協会は平成24年度、公益財団法人として新たな歩みを開始した。

また24年度は、大阪市立科学館の指定管理者として指定を受けた4年間（平成22～25年間）の3年目である。

24年度の入場者数は757,833人で、昨年度を約5,000人上回り、22年度から3年連続の史上最高となった。観覧料収入は約2億円で、予算を1割上回った。内訳は表1、表2に示すとおりで、展示場入場者数が、わずかに前年度を下回ったが、史上第2位、プラネタリウムは前年度を約8,000人上回り、過去10年間で第3位と好調である。

この良好な実績は経営計画で重点を置いた「日々の職員等の基礎活動」が実を結びつつある証だと言える。たとえば、大阪で282年ぶりとなる金環日食を迎えるにあたって、日食の仕組みや観察方法の紹介等をプラネタリウム番組、パンフレットの制作、市民向けレクチャーの実施などを通して職員が一丸となって精力的に準備を行った結果、5月21日当日科学館で開催した観望会には早朝にもかかわらず7,000名もの皆様にお越し頂くとともに、その様子が10を超えるTV、新聞等で紹介された。

また、12～2月のプラネタリウム番組「オーロラ」が、閑散期にもかかわらず、座席占有率約80%の大ヒットとなった。これは学芸員が独自に制作したソフトの内容が評判となったのである。さらに、サイエンスショー及びエキストラ実験ショーにおいては、学芸員の企画・指導で、市民参加を拡大し、館内外での実施回数が増加するだけでなく、レベルも向上し、好評を得た。

こうした結果、経営計画で掲げた3つの平成24年度目標を全て達成することができた（表3）。

表1 平成24年度入場者数

	実績	予算	対予算比	対前年比
展示場	388,114	362,926	106.9	99.3
プラネタリウム	369,719	340,273	108.7	102.2
合計	757,833	703,199	107.8	100.7

表2 平成24年度観覧料収入（千円）

	実績	予算	対予算比	対前年比
展示場	52,769	43,266	122.0	95.6
プラネタリウム	145,730	137,431	106.0	100.4
合計	198,499	180,697	109.9	99.1

表3 経営計画の目標と実績（平成24年度）

	総収入に占める自主事業等の割合の増大	連携型事業の推進	大阪市内小学校による科学館活用機会の増加
目標	59.1%	年平均20件以上	244件
実績	59.7%	31件	268件

平成24年度 事業報告書

(平成24年4月1日～平成25年3月31日)

I. 公益目的事業

1. 展示場事業

(1) 常設展示の公開・管理

メインテーマ「宇宙とエネルギー」にしたがい、202点の展示品を主に1～4階の常設展示場で公開した。入場者増加に伴うハンズオン展示の故障増大という科学館特有の問題と経年劣化に対応するため日常のメンテナンスに努めるとともに、資料の追加や交換を適宜行った。また、学芸員考案の新展示を4点導入し、老朽化の著しい展示1点を廃棄した。また、小学校団体の展示利用を支援するために、学習プログラムを制作し引率者へ配布した。

(2) 企画展示

映画「天地明察」公開に連動した企画展「渋川春海と江戸時代の天文学」開催した他、「そらみたことか写真展—虹とそのなかま—」「花火の化学展」などを開催した。

(3) 展示解説ボランティアによる展示案内

展示場にて、案内や展示品解説、実験演示等を行った。また今年度初めて「サイエンスガイドの日」を設けて、活動中のサイエンス・ガイドが一斉に参加してガイドを行う行事を実施した。登録者数：62名、活動延人数：1,507人、指導員：4名

(4) サイエンスショーの実施

学芸員を中心に1日4回を原則に1回30分の実験ショーを3ヶ月毎にテーマを変えて行った。実施回数：1,018回、見学者数：76,001人

(5) エキストラ実験ショーの実施

サイエンスショーとは異なる実験ショーをボランティアが演じた。実施回数：278回、見学者数：14,190人

2. プラネタリウム事業

1日2番組合計7回のプラネタリウム一般投影を基本に行った。この2番組のうちの一つは3ヶ月毎にテーマが変わる学芸員等によるライブで（一般投影A）、もう一つは全天周映像を組み込んだ番組である（一般投影B）。前者の「神秘の太陽—金環日食」は日食の仕組みや観察方法をオリジナル番組で解説した。後者の「オーロラ」は全天周映像システムが映し出す鮮明なもので、閑散期にも関わらず、座席占有率が約80%の大ヒットとなった。学芸員が自主制作したもので、他館への配給をも目指すものである。

(1) 一般投影A

「今夜の星空」の解説に加え、学芸員等による生解説を基本スタイルとして投影を行った。投影回数：1,031回 見学者数：167,292人（7/28臨時投影を除く）

(2) 一般投影B

全天周デジタル映像作品をメインに、学芸スタッフ等による生解説を加えて投影を行った。投影回数：760回 見学者数：156,395人

(3) 全天周映像

CGデジタル動画作品「HAYABUSA —BACK TO THE EARTH—」を上映した。上映回数：7回 見学者数：1,402人

(4) 学習投影

学校団体専用に学校教育用に投影を行った。見学校：288校、投影回数：117回、見学者数：22,424人

(5) 幼児投影

学芸員による手動投影で、それぞれの季節に見える星空や、星座や天体の話題を紹介した。投影回数：40回、見学者数：10,171人

(6) キッズタイム

幼児連れの家族向け投影を行った。投影回数：115回、見学者数：12,035人

(7) スペシャルナイト

天文学の普及と市民の生涯学習に資することを目的に、学芸員の専門・得意分野を活かした特別投影を実施した。実施回数：3回、見学者数：756人。

3. 資料の収集及び保管、調査研究事業

(1) 資料の収集・保管

永久磁石式リターダを住友電気工業㈱から寄贈を受ける等、寄贈・寄託資料 111点 購入・製作資料 2点、借用資料：14点を収集した。また金子式プラネタリウムなど 18点の資料の貸出を行った。

(2) 調査研究

(ア) 中之島科学研究所

学芸員と外部研究員 5名が情報交換を行い、研究活動を推進した。実績は下のとおり。

- ・学術誌等での論文掲載、学会等での口頭発表合わせて 9件
- ・第3回理工系学芸員展示研究会を開催し、他館の学芸員と意見交換を行った。
- ・毎月1回のコロキウムにおいて、研究員が市民公開の場で研究報告を行った。

(イ) 外部資金獲得

全国科学系博物館活動等助成金など 3件 76万円

(ウ) 第4次展示改装調査事業

他館等の視察を 5件、展示試作 2件などを実施した。

4. 教育普及啓発事業

(1) 科学教室、講演会、教員研修など

日本物理教育学会近畿支部などとの共催による「青少年のための科学の祭典 2012 大阪大会サイエンスフェスタ」が2日間で 28,000人を集めた他、43件（内他組織の協力等を得たもの 29件）の各種事業を実施した。参加者は自由参加を除いて 3,329人であった。

(2) 科学デモンストレーター研修

実験ショーの人材養成を目的に、1年間の研修を行った。研修生：4名 修了者：4名

(3) 天体観望会

市民対象の天体観望会を、ボランティアの天体観望会指導員の協力のもとに実施した。

実施回数：6回 参加者数：252人（5/21 金環日食特別観望会：参加者数 7,000人、6/6 金星の太陽面通過特別観望会：参加者数 1,600人除く）

(4) ジュニア科学クラブ

小学校5、6年生が毎月1回科学館に集合し、プラネタリウム見学や実験教室等での活動に取り組んだ。会員数：149人

(5) アウトリーチ事業

モバイルプラネタリウム、出張サイエンスショー、講演会など合計 44 件（自由参加を除く参加者数 3,519 人）を実施した。

5. 建物・設備等に関する管理運営事業

科学館の土地、建物、設備等の維持・管理及び運営を適正に行った。

当協会の専門性の高い技術職員が、法定点検など各種設備点検を確実に行うとともに、設備故障を未然に防ぐ観点から、日々、工夫を凝らして巡回を行うなど、建物や設備の安全確保のための活動を展開した。

また、照明設備のLED化を経費節減のため、自主工事にて積極的に取り組むとともに、その他設備の運用面においてもこまめな節電運転を実施した結果、電気使用量が昨年度比で 18.8%の減（22 年度比で 29.6%減）、電気使用料金は、昨年度比で約 10.1%の減（22 年度比で 21.9%の減）と大きな成果となった。

6. 情報発信及び広報・宣伝事業

科学館ならびに科学と科学技術の普及啓発のため、ホームページの充実等多彩な手法による情報発信を行うことで広報・宣伝に努めた。

II. 収益事業

1. 売店事業

科学館への来館者に、当協会の学芸員が作成したミニブックをはじめ、こよみハンドブックなどの科学書籍、科学雑誌、オリジナルグッズ等の商品の販売を行った。また、科学館西側屋外テント内に、自動販売機を設置し、清涼飲料水等の販売を行った。

2. 駐車場事業

上半期に科学館への来館者のために、以下の収容台数等で駐車場事業を行った。下半期は大阪市が、専門事業者管理運営を任せることとし、公募手続きを行い、新しい事業者を決定したため、平成24年9月末日をもって当協会駐車場事業を廃止した。

- ・ 科学館北側一般駐車場 面積7,803平方メートル 収容台数300台
- ・ 科学館西側バス駐車場 面積 809平方メートル 収容台数 22台